

## 令和5年度博物館展示会(案)

展示会名	備考
<p>収蔵品展 「飯茶碗」 開催期間：4月1日（土）～6月18日（日）</p>	<p>博物館の収蔵品の中から、飯茶碗をメインにした志戸呂焼をはじめとする陶磁器を紹介します。</p> <p>飯茶碗は米を主食とする日本の食文化と密接な関係にあり、志戸呂、瀬戸、伊万里など様々な窯で焼かれています。家族の中でも共有されることはあまりなく、「ひとりにひとつ」の器です。日常の中で使われている器にスポットを当て、日本人の美意識を探ります。</p> <p>なお、飯茶碗を中心とした展示会は、20年以上開催されていません。</p>
<p>築城450年/国指定50年記念 特別展 「築城450年記念 諏訪原城」展 開催期間：7月1日（土）～9月24日（日）</p>	<p>諏訪原城特上450年、国指定50年を記念して、郷土の中世史をテーマにした特別展。初めて諏訪原城を中心とした展示会を開催します。</p> <p>武田勝頼の指示で駿河国・遠江国の国境に築城された諏訪原城。</p> <p>徳川・武田の間で激しい攻防戦が繰り返されながら、わずか27年で廃城となりました。本展示会では、発掘資料、図面などを通して戦国乱世に諏訪原城の数奇な軌跡を辿ります。</p>
<p>企画展 「日本グラフィックデザインの曙光 原弘」展 開催期間：10月7日（土）～12月17日（日）</p>	<p>原弘をテーマとして、日本の近代デザイン史について考えることで、島田の主要産業である紙（木材工業）についても触れていきます。</p> <p>長野県出身で、日本の近代デザイン黎明期を牽引した原弘のデザイン画、デザインした資料などを、特種東海製紙の協力も得て紹介します。</p> <p>原弘は、その功績に比して研究途上の人物であり、日本でも3館ほどしか展示会が開催されていません。</p>
<p>企画展 「星空 —map of the future 清水真一がつなぐ島田と宇宙」展 開催期間：令和6年1月13日（土）～ 3月17日（日）</p>	<p>島田の郷土史に足跡を残した人物を取り上げる展示です。平成21(2009)年度に、多彩な分野で功績を残した、島田市初の名誉市民・清水真一を概論的に紹介する展示会を開催していますが、あらためて天文研究者としての清水真一にスポットを当てた展示会を開催します。</p> <p>また、志太榛原地区を中心に天文に関する展示を行います。研究記録、写真などから当時の天文学の研究を振り返ると共に、現在の宇宙開発や天文学の研究についても紹介を行います。</p> <p>※都合により、収蔵品展に変更する可能性があります。 その場合、「服飾」をテーマに考えています。</p>

企画展に係る催し物

- ・学芸員によるギャラリートーク
- ※その他、各企画展ごとに講座やワークショップ等の関連イベントを立案予定

その他の催し物

- ・博物館講座
- ・無料開放日体験学習(こどもの日、県民の日、文化財オータムフェア協賛、富士山の日)
- ・夏休み体験学習
- ・しまはくワークショップ(わくわくアトリエ、ちょっと昔のおもしろ体験)
- ・機織り体験
- ・おもちゃ病院

令和5年度博物館分館展示計画(案)

展示会名	備考
<p>(記念館) 収蔵品展 「海野光弘 「あなた」と「私」ふたり展」 開催期間:4月1日(土)～6月25日(日)</p>	<p>内容: 画面に二人の人が描かれた作品40余点から、選択し展示。「あなた」と「私」とすることで作品中の人物に移入したり、あなた＝海野光弘・私＝鑑賞者と感じていただけるようにする。</p> <p>コンセプト: そばに居るふたりが、共に作業をしたり語らったりしている温かな時と空間を表現した作品をあらためて、今、ご覧いただく。鑑賞者に、誰かと居た懐かしい時間を回想してもらうことにより作品に近づいていただく。</p>
<p>(日本家屋) 海野光弘 作品展示 開催期間:4月3日(火)～6月5日(日)</p>	<p>海野光弘の作品を展示。 ※東北など遠方からのお客様もある。年間を通じて、展示替えて海野作品が観られないという事がないよう、丁寧に選択して展示。ガラスケース2台を利用して、普段見られない資料をご覧いただいている。民俗資料の展示や、市民の思い出話をパネル化した「島田のあの頃の話「あんときゃあね」」展示と連動する。</p>
<p>(記念館) 収蔵品展 「海野光弘 いい絵を観るにはイスがいる！」 開催期間:7月1日(土)～9月24日(日)</p>	<p>内容: 大小幾つかの椅子を用意し、好きな絵の前でじっくり鑑賞していただく展示。IRIE WOOD WARKS(佐藤巧氏・島田市在住)制作の天然木を活かした長椅子2台、ダイニング椅子2～3脚借用予定。 海野構図の仕組みをパネルやギャラリートークで、解説</p> <p>コンセプト: まず鑑賞者に椅子を提供することで、お気に入り作品を見つけていただく。座って時間をかけて絵をより深くご覧いただく機会を作り、海野版画をより近くに引き寄せていただく。ファンを増やすと同時に、「こんなことをしてきたよ」と身近な人に話してもらえるインパクト作り。</p>
<p>(日本家屋) 開催期間:7月16日(土)～9月4日(日)</p>	<p>海野光弘の作品を展示 ※同じく</p>
<p>(記念館) 収蔵品展 「海野光弘 あなた、又スムならどれ？」 「海野光弘 大怪盗、盗むならどれ？」 または 「自宅に飾りたい作品はどれ？」 開催期間:9月30日(土)～12月10日(日)</p>	<p>内容: サイズ・作品年代・作風も異なる、作品展示。多様な作品群から、「もし自分が持って帰って家の中に飾るなら、どれをどこに？」と考えていただく</p> <p>コンセプト: 自宅のこの部屋のこの壁面自分の家に飾りたくなる作品を少しドキリとさせるタイトルで。「自宅のこの部屋のこの壁面に」と、具体的にイメージしてさらに一步近づいていただくと同時に、いわゆる海野版画以外の若い頃の作品もこれを機に知っていただく。</p>

<p>(日本家屋) 海野光弘 作品展示 開催期間:9月 17日(土)～12月18日(日)</p>	<p>海野光弘の作品を展示 ※同じく</p>
<p>(記念館) 収蔵品展 「海野光弘×民俗資料室 海野さんが描いた道具たち」 開催期間:12月 16日(土)～令和6.年3月 25日(日)</p>	<p>内容： 昔の生活道具（背負子、蓑、笠、杵、臼、自在鉤、灰かきなど）が描かれている海野光弘版画（44点中、25点ほど厳選）と、その道具を同時に展示する。道具はなるべく触れて良いものを展示する。</p> <p>コンセプト： 版画と昔の道具両方に親しみを持っていただきたい。社会見学の小・中学生が多く来館されるこの時期に合わせて海野版画の昔の道具にクローズアップする。社会見学の時に版画記念館にも入っていただき、また、版画記念館に来られた方にも民俗資料室にも行きたくなるような、版画記念館と民俗資料室が連動した、分館を丸ごと楽しめる展示にしたい。</p>
<p>(日本家屋) 海野光弘作品展示 開催期間:12月24日(土)～令和5年4月16日(日)</p>	<p>海野光弘の作品を展示 ※同じく</p>
<p>※ 12月 日( )～令和 年1月 日( ) :館内くん蒸作業・年末年始 休館</p>	
<p>その他</p>	<p>*学芸員によるギャラリートーク</p>

どの展示も、分館の日本らしさ・懐かしさ・くつろげる空間を満喫していただくための一端を担う。